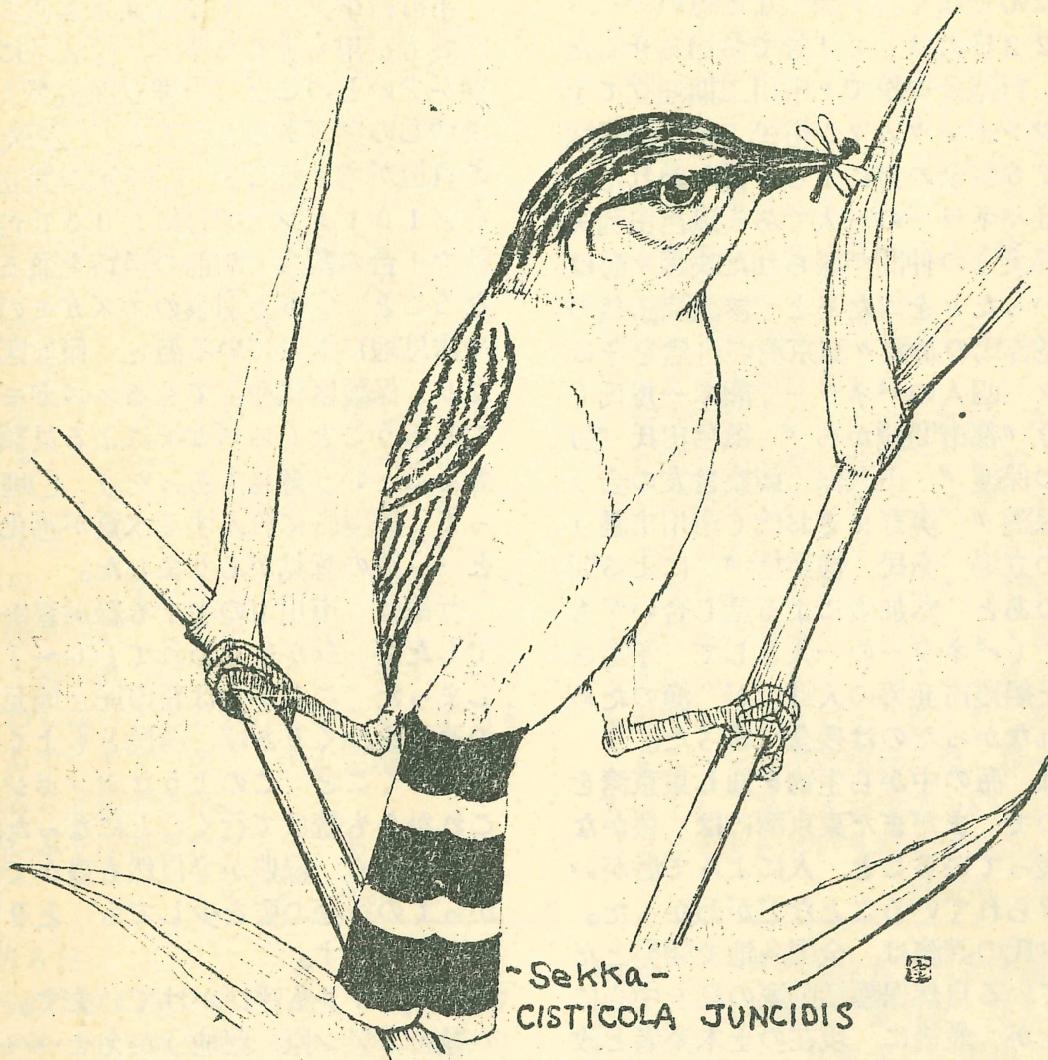


すずがも通信 25



-Sekka-
CISTICOLA JUNCIDIS

夏は来ぬ
うの花の
におう垣根に
ほととぎす
早も来鳴きて
しのび音もらす
夏は来ぬ

翔音
はなと

—今年もケケシ ケケシ申し上げます—

今年も 行徳駅前のような（休耕田用地）にも 東南アジアからオオヨシキリ（ウグイスの仲間）がやってきて そばの電線の上でケケシ ケケシ……とないでいます。（なんとなく胸が痛くなる思い……）

4月22日には 24号でお知らせしたように 行徳公民館で「市川二期埋立てを考えるシンポジウム」が市民 自然保護関係など70名余の方によって行なわれた。

当日はペネラーの一人である風呂田利夫氏（東邦大）の仲間が撮られた映画「海はどこにいった」を観たあと 参議院議員のみのべ亮吉氏の講演「東京湾の自然を守るために」 四人のペネラー；熊本一規氏（和光大）「都市問題から」 風呂田氏「海洋生物の保護」 田久保（観察舎友の会）「野鳥保護」 奥野まさお氏（市川市議）

「市民の立場 漁民 漁業権」による問題提起のあと 参加者による話し合いがもたれた。（ペネラーの一人として 予定されていた船橋市漁協の大野氏が 漁のため参加されなかつたのは残念であった。）

映画は 海の中から生物を通じ東京湾を見たもので まだまだ東京湾には 豊かな自然が残っていること 人によって海がいためつけられていることなどがわかった。

みのべ氏の講演は 全国各地で開発とたかっている自然保護活動家の話を中心に話されたが 最後に 現在の土木業者と政治、行政が組んだ体制は 急には変わらないが 市民運動が強くなれば変わっていくであらう という話があった。

シンポジウムでは ○埋立海域にはたくさんの魚貝類がすんでいて 年間1億円の水あげがある ○東京湾では慢性的に起っている 赤潮や青潮も干潟や浅場（水深5m以内）があれば防ぐことができる ○人工的に埋立地の先に干潟を造っても 現在のような浅場の代りになるとは疑わしい

○この埋立は フェニックス計画（巨大ゴミの島）のミニ版として 陸上残土や不燃ゴミの捨場となると予想されること ここに予定されている下水道用地についても

市町村単位でつくる公共下水道のほうが時間も費用も少くてすみ 生態系に及ぼす影響が少いとのこと ○埋立面積が大規模で水増しの感があるとのこと ○新たな市民の負担が増えること ○予定の埋立が始まるとき 10tダンプで毎日5000台余が2秒で1台の割合で駅前の道路を通る計算になると ○5万羽余のスズガモのエサ場や休息地になっている海と 保護区が遠なり 保護区にやってくるスズガモが減るであろうこと（スズガモによる貝類の食害もあるという意見もあった） ○埋立によって 保護区に流入する水質が悪化すること……等の意見がありました。

行徳は 市川市の中でも緑が豊かな地区でしたが 緑が失なわれて（6～7割減）しまった これからは新市民と地元の人との連帯をつくりあげ 漁民ともよく話しあっていくこと このようなシンポジウムをこれからも続けて行くことになった。

歴史古く 緑豊かで自然も豊かであったかつての行徳の姿を少しでも とりどりたいものです。

オオヨシキリも呼びかけています。「昔の緑を（アシ原、湿地）かえせ……ケケシ ケケシ……返せ 返せ……

○5月12日 13日に行われた 愛鳥週間特別行事では 県や市の協力を得て 雨天にもかかわらず 1600名あまりの来館者に 鳥のよさ 愛鳥の気持を伝えることができました。お手伝いをいただいた方々ありがとうございました。

今後も来館者への鳥の説明等 できる範囲で結構です 皆様のご協力を お願いいたします。
(田久保 晴孝)

啼声
さえずり

—新浜探鳥会 感想文—

3月11日

前略 日本の太平洋側に移動してきた高気圧から 強い南寄りの風が1日中吹いた。人も鳥も久しく待っていたあの 春を告げる嵐。上空は雲一つない快晴。期待を胸に私は出かけて来た。妙典の田んぼで タシギとセイタカシギに会った後 冬枯れの蓮田の奥に 飼をつけばんでいる冬姿の彼を見つけた。長めの赤い足と 基部の赤いとがった嘴 灰色の体の細い斑紋が美しい。春の使者 彼の名はスポット レッド シャンク。

人知れず大旅行を貫行し そして忘れるこなくここに立寄ってくれたとは。

しばらく夢中で彼の姿を追っていた私は長い間捜していた本が とうとう手に入った時の 心の安らぎにも似た おおいなる満足感を味わうことができた。江戸川河口の干潟には ハマシギとシロチドリが鳴き交わしながらわむれていたし 十羽を越えるセイタカシギも 至近距離でじっくり観ることができた。

久しぶりに素直な日曜日であった。

阿部 汎孝

4月8日

今日は新浜に来て見ました。今頃行けば シギ チドリが来ていると思ったからです。ハス田にタカブシギが飛んで来ました こんどは どんなのがくるかな と期待していたが こなかった。

次の所へ行くと コガモがいました すると チュイッと声がしてここに下りました。ツルシギです 足が赤いのできれいだなあと思った。次の場所にいくと ハシビロガモ コガモが いっせいに飛びたちました 残ったのはコガモ3 4羽と上をツバメが飛んでいるだけです。みんなが見ていているところに行くと オオバンがいました。

やがてそこから江戸川に行きました。そこで昼食です。そこで観察していると スズガモが3羽いました ハマシギ シロチドリなどがいて メダイチドリもいまし

4月8日

プロミナーから 自分の目で観察する野鳥の姿は何ともいえない。田久保さんからたくさん教えていただいたが セイタカシギの赤い足がとても印象的でした。人が近づくとすぐ飛び立ってしまうカモ達 ヨシのかこいの中で安心していられたにと思う悪い気がした。ヒドリガモやスズガモのきれいなことや ヨシの中で出入したオオジュリン バンやオオバンがヨシの間から顔を出したことなど 今でも目にうかびます。

行徳駅前で待っていましたが 寒く今にも降り出しそうな空模様でしたが その後回復して観察できたのは好運でした。

セグロカモメとオオセグロカモメの区別が どうも自信がなかったのですが 観察舎のわきの小屋でセグロカモメをよく観察できたり ミツユビカモメも近くでみるとができる とてもうれしかった。

もうハマシギの腹部の黒くなっているのもいたし ツバメが飛びかい いよいよ春がやってきたという感じでした。

川名 興

た。二つめの橋のちょっと手前で M君がダイゼンを見つけました ぼくも見せてもらった。これもきれいだが ツルシギはもっときれいだった。セイタカシギはあんまりいなかった。バスに乗り新浜にいった。そこでカルガモ コガモ オオバンなどを見た 海こうではヒドリガモ スズガモ キンクコハジロに加えてオカヨシガモを見た。ヨシガモもいたが見られなかったので 残念だった。そして中を歩いて観察舎についた。鳥合わせは53種も出来ました。

アメリカヒドリが3階から見られるかもしれないというので さがした。

みごと見ることができましたが ちょっとしたないようにも感じた。

本当にいい1日だと思った

吉田 滋樹

ミシガン 不定期便 松木 護

※筆者の松木護君は中学生のころから観察舎に通っていた熱心なナチュラリスト。

昨年からミシガン州のカートランド・コミュニティ・カレッジに留学し、この9月からアラスカ州立大学に進みます。楽しい手紙をきちんと送ってくれるので、本入の承諾を得て一部を紹介させていただくことにしました。(文責蓮尾)

○2月15日/ミシガンはクリスマスから正月にかけてだいぶ寒さが厳しかったのですが、その後は平年並みの冬にもどったようです。寒い寒いといってもどこへ行っても暖房がきいているので外へ出ないようすればいいわけで、それに体が寒さに慣れてしまったらしく日本に居る時と同じかむしろ薄着をしているくらいです。

ただし外にいる時は絶対に寒く二三分手をポケットから出しているだけで手が痛くなります。

この四五日は気温が4°Cまで上がりまるで春が来た様で雪はどんどんとけてしまいました。ただしまた寒くなりそう。

部屋の窓の外10cm位の所にエサ台を出しているのでアメリカコガラ20~30セジロコガラ1~4 カオジロゴジュウカラ2 アオカケス5~10が毎日じっくりと見られます。11~12月にはキビタイシメが30羽ほどいましたが今はもっと東へ移動した様です。チョウセンゴジュウカラ♂1♀1が半月ほど前まで見られました。その他セジロアカゲラ オウゴンヒワ スズメ キバシリが時々見られます。エサ台に来る小鳥をねらってオオモズ!!の成鳥が1羽うろついているようですがこれまで3回部屋の窓ごしに見ただけです。2週間ほど前に机にむかって勉強していたら「シューッ!」という音がしたので目を上げたら窓すれすれにオオタカが旋回して飛び去って行くところでした。今週の日曜の朝ベッドから何げなく外を見た時白い鳥が飛んできて少しあなれた木にとまつたのであわてて双眼鏡で見たらシロフクロウの♀でした。

残念ながら松の枝かげになって顔がよく見られませんでした。

最後にいい話をひとつ…昨日アラスカ州立大学からの入学許可書を受けとりました。今年の秋にはアラスカに行きます。

4月8日/こちらはだいぶ春らしくなってきましたとは言っても昨日は一日中雪でしたが…学校のまわりにもコマツグミやフタオビチドリ ハゴロモガラスなどが戻ってきて少しにぎやかになりました。こちらではコマツグミが戻ってくると春がもうすぐそこまでできているという証しで

このごろはコマツグミをいつ見たかということがよく話題に上りました。1週間ほど前エサ台にムラサキマシコの♂が1羽きて半日きれいなワイン色を楽しみました。その日は1日気分よくすごしました。

先日キバシリが地上でエサをとっているところをじっくり見ました(もちろん部屋の窓から)地上にいるキバシリってエサ台の上にいるセジロアカゲラと同じくらい場違いの感じがするやっぱり先入観というのはおそろしいものです。

学校の方はあいかわらず気違いのよいそがしさで週末もほとんど息をつくひまもないほどです。心理学や社会学の講義にもついていくようになったし毎日楽しく忙しく過しています。

しかしこの前初めて数学で97点をとった(それまでは全部100点)だいぶおちこみました。今はもう立直りましたよ。

5月6日/こちらは4月29日から夏時間(陽の長い夏の間時計を1時間進める)が始まりました。夕方は9時でもまだ明かるく夕食の後部屋にこもって勉強するのがばからしくなります。ちなみに朝は5時半位(実際は4時半)には明かりになります。気温もだいぶ上ってきて4月27日は27°Cムシ暑い1日でした。

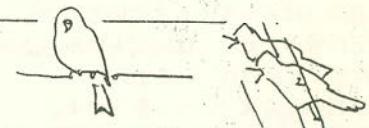
芝生もだいぶ緑が濃くなり春らしくなりましたとはいっても5月1日には雪が降りました。

鳥も4月20日をすぎてから種類も個体数も増えてきました。今エサ台にはオウゴンヒワが15羽位キビタイシメが

30~35羽位コウウチョウが10位アメリカコガラが5羽位ムラサキマシコが♂3♀2 カオジロゴジュウカラ♂2などが毎日来ています。シルスイキツツキの♂がドラミング(?)するのが毎日窓から見られます。2週間前にはクーパーハイタカの若鳥がエサ台にきていたコガラを1羽かっさらっていくところを見ました。今夜は卒業式でした。まだ成績のことはハッキリわかりませんが

たぶん先学期よりはいい結果になるだろうと思っています。

6月13日から7月26日までは学校で化学の実験助手とはくせい作りのバイトをすることになりました。この間は勉強する必要がないので夜は本を読んだりジョギングしたり週末は鳥を見に行ったり釣に行ったりしてしっかりミシガンの夏を楽しみたいと思っています。



鳥の国から

一観察舎便り
春がくるのが遅かったせいか冬鳥たちの帰るのが例年よりいくらか遅い様です。

(5月21日現在)

終認

チュウヒ	4/27	1羽
セグロカモメ	5/3	2
ヒドリガモ	5/8	♀1
ハシビロガモ	5/8	♂2 ♀2
キンクロハジロ	5/21?	
オナガガモ	コガモ	まだいます
スズガモ	5/19	140±

これまで一番遅い記録

ツグミ	5/21?	
ショウビタキ	4/3	1

夏鳥の到着は…これも遅いみたい

初認

ツバメ	3/25	
コチドリ	3/18	7
コアシサシ	4/24	
オオヨシキリ	4/29	
ヨシゴイ	はまだ見ていません	

○5月5日には必ずカルガモのヒナを見るんだとおりきっていたジュニア会員のソノ君 残念ながら見られずじまい。

ヒナの初認は5月19日水路を泳いでゆく十羽づれの親子。ところがこの日何があったのか午後になって四羽のはぐれヒナが水路に新しくできた水門のそばで見つかり夜にはカモメ橋(観察舎の入口のところ)のところでまた一羽。うち三羽が保護されましたが一羽は夜のうちに死んでしまいました親鳥に何かあったのかネコか人間に追い散らされました。

○パンのクオレンジとビンクの夫妻去年は別々のつがいになりましたが今年はまた一諸になってヒナをかえしました。

八羽。お目見えは17日19日にはエサ場にぞろぞろやってきました。

まっ黒でくちばしの赤いヒナは足ばかり大きくてとってもユーモラス。

親鳥はむきになってエサ場のゴイサギを追いかけていました。

(蓮尾 純子)

すずがも通信

-野鳥紳士録(改題)-

No.4

○ヨシゴイ

少し夏色に染まりかけた鳴射しが西へ傾く頃保護区の本土の上をかすめてヨシゴイが淡水の巣へ帰って来ます。漢字では「葭五位」、「五位」は五位鶯から来ているのでしょうか。

五位鶯の「五位」は醍醐天皇から頂だいした位だと言われています。

「葭原の五位鶯」という意味です。

英名は「Chinese Little Bittern」 Bitternはサンカノゴイの事を指しています。中国の小さなサンカノゴイと言うところでしょうか。

学名は「Ixobrychus sinensis」 属名のIxobrychusはギリシア語で「ヤドリ木をむさぼり食うもの」と言う意味ですがこれはヨシゴイが葦の茎に嘴をつき刺して吹きならす(brychaormai)と言う古いローマの言い伝えをギリシア風に誤記したものとされています。

種小名のsinensisは「清国(今の中国)産の」という意味です。彼等はヨシゴイと呼ばれるもののその巣はガマの葉や茎を使って作られます。

保護区のヨシゴイはヒナの餌を保護区の外から取つて来るようで一見豊かに見える保護区もヨシゴイにとっては厳しいものなのかもしれません。

○オオヨシキリ

緑も更に色を増し梅入り間近の頃オ



オヨシキリは今育児の真最中です。

保護区の中でもあちこちで賑やかな鳴りが聞えています。漢字では「大葦切」と書きます。何故「葦切」と言うのかわかりませんが中国では「剖葦」と言い「剖」の字には「裂く」と言う意味があり鳴りが葦を裂く音のようだからこう呼ばれるそうです。

英名「Great Reed Warbler」。

Warblerは鳴り鳥という意味なので「葦原の偉大な鳴り鳥」と言うことでしょうか。学名は「Acrocephalus arundinaceus」属名のAcrocephalusはギリシャ語のakros+kephale(頭)の複合語後節cephalusで尖った頭と言う意味です。種小名のarundinaceusは葦のと言う意味で「葦原の尖った頭」と言う訳ですね。

今保護区の葦原は土地の乾燥化の為にセイタカアワダチソウやススキに押され気味です。妙典の埋立も次第に進んでいます。

もうじきあの賑やかな声が保護区以外のところから消えてしまうのかもしれませんね。

荒井 八太

参考図書

「鳥の学名」 内田 清一郎著
ニューサイエンス社

「野鳥の辞典」 清瀬 幸保著
東京堂 出版

「野草雑記 野鳥雑記」 柳田 邦男著
角川文庫

鳥の昔々

行々子(ヨシキリ)

昔津軽地方(今の青森県)は八戸のはずれに長興寺といつた立派な寺があつた。寺は立派であったが、その和尚はたといへん見得つ張りでケチであった。

ある日和尚は村の大金持の家の法事に行く為にせいいっぱい目かしこんで出かけようとしたが、前の夜の雨で道がぬかるんでいたので新しいゾウリをお伴の寺男に持たせ自分は古いゲタで出かけた。

ところが寺男はゾウリの片方を途中でどこかに落してしまった。

和尚はそれを知り、ひどく腹をたて寺男を切り殺してしまった。

死んだ寺男は行々子になった。

それ故にこの鳥は

チョウコウジ チョウコウジ
ゾウリカタアシ ナンダングイ
キラバキレ サアキレキレキレ
と うらみを込めて鳴くのだそう。

(青森県八戸地方民話)



種名	記録日数	最高数	最高数記録日ほか
カツブリ	19+2	8	3/9, 29, 30
ハジロカツブリ	+1	1	3/4 幼鳥が発
カワウ	19+1	148	3/9 夕方(16:36)飛立フ
ゴイサギ	10	41	
タイサギ	11	3	
コサギ	20(+3)	4	
アオサギ	23	12	3/13
マガモ	13+1	30±	3/4
カルガモ	25	189	3/8
コガモ	25	91	3/22
ヨシガモ	13+1	8	3/8 84±4
オカヨシガモ	6+1	5	3/18 23±2
ヒドリガモ	25	837	3/22
アメリカヒドリ	6+1	1	8
オナガガモ	25	43	
ハシビロガモ	22	31	
ホシハジロ	2	5	
キンクロハジロ	8+2	300±	新渡海溝に
スズガモ	16+3	100+	
トビ	9+1	2	
オオタカ	1	1	3/15 幼鳥
ノスリ	5	1	
チュウヒ	19+2	2	
チヨウゲンボウ	2	1	
キジ	7+5	6	3/22 ±5±1 (本土)
バシ	25	7	
オオバン	+3	3	カモ場、金魚池
コチドリ	7	10	3/18 初認(7羽)
シロチドリ	20	2+	
ダイゼン	21	3	
ハマシギ	13	46	3/16
ツルシギ	1	2	3/22 初認(水路)毛利新喜
イソシギ	2	1	
セイタカシギ	4+2	3	水路かも場、北池、鈴ヶ浦
ユリカモメ	20	200~300	3/18 朝北へ ~300.0m
セグロカモメ	26	185±	3/2
オオセグロカモメ	1	1	3/2
カモメ	4	3	
ウミネコ	14	1	
ドバト	28	20+	
キジバト	17+2	3	

コミニズク	1	1	3/13 小島岬アンの申
カワセミ	+2	1	船着場、高校水門
ヒバリ	2+1		
ツバメ	1		3/27 初認(朝南→北へ)
キセキレイ	+1	1	3/18 駒場駅(西瀬)
ハクセキレイ	17+1		
タヒバリ	1+3		
ヒヨドリ	20		
モズ	1+4		カモ場、苗圃先
ジョウビタキ	3+4		欠負向三角、本土、水路
ツグミ	16+4	10+	旧館脇の竹やぶとねぐら
ウクイス	8+2		3/17 さえざり
シジュウカラ	+9	7	カモ場、本土、苗圃先、 港岸駆除ばい
木オジロ	1		
アオジ	6+6		
オオジュリン	3+5		
カワラヒワ	1+1		
スズメ	24	16	
ムクドリ	4		
ハシボンガラス	7	3	
ハシブトガラス	+2	5	3/25 朝駒場入口上空

計 62種

(注)この記録は観察台からの観察を原則とし、それ以外で記録された日は,+100日で示した。

- 草地や林の鳥の数の記録はとつてない。
- 記録をつけている日やほとんど記録していない日もある。

寒波の影響かコチドリやツルシギの初認はだいぶ遅れました。ツバメが例年とかわりなかったのがふしきなほど。

カモはすと少ないです。まあ、最高数を見てやってください。1,000羽をこえた種類1つもなし。

とにかく鳥はすと少なくて、特にかわしたこともない月でした。シジュウカラが“す”と残っているのが特筆すべきことでしょうか。

行事案内

誰でも自由に参加できます。

○新浜自然観察会

6月10日 7月8日 8月12日

集合：東西線行徳駅前 午前10時

解散：野鳥観察舎午後2時半頃

わずかに残されている 妙典地区の湿地や
保護区で カモ サギ カモメ バンなどの
水鳥を中心に動植物の観察をします。

(午前中は江戸川放水路妙典の観察をして
午後は保護区の中に入れていただく予定)

参加費： (小中学生は無料)

お弁当 水筒 雨具 ボウシをおわすれなく

○定例 園内自然観察会 (観察舎主催)

6月3日 17日 7月1日 15日

集合：野鳥観察舎前午後1時半

解散：〃〃 午後4時頃

園内の観察路を 約3.5Km歩きます。歩き
やすい服装 はきものでどうぞ。

※7月 8月の観察会は集合時間が 午後
3時となります お間違えないよう。

○サギ山見学会

6月24日 小雨決行

集合：野鳥観察舎前 午後1時半

定員：30名 (小学生以上)

観察舎蓮尾()まで電話
で申し込んで下さい。定員になり次第
打切ります。

今年も少數ながら 行徳でサギが何種か繁
殖しています。今は少なくなった 行徳
のサギ山を見学します。場所柄カメラの
持込みは できません。

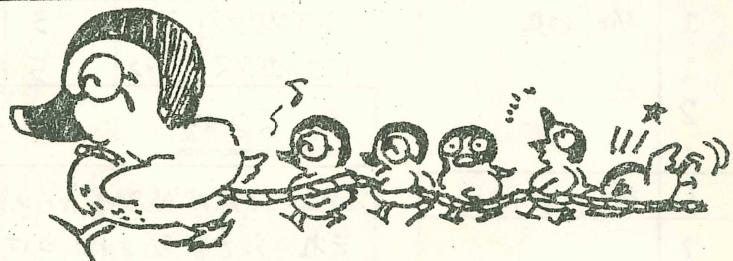
○夕すずみ探鳥会 7月22日 雨天中止

集合：観察舎前 午後5時

解散：〃〃 午後7時前

担当：観察舎 蓮尾

風がひんやりと涼しくなるころ 鳥たちは
新浜鴨場の ねぐらをさして次々と帰って
きます ムクドリの大乱舞も見られるでし
ょう。マツヨイグサの咲くころ解散です。



一事務局より

今年度の会費を 納めて下さい。一般会員1000円 賛助会員2000円以上 ジュニア会員(小中高校生)500円です。観察舎でお金をあづかってもらえます。

その他 絵はがき シール 鳥のマスコット 鳥の図鑑なども販売しています。

一編集後(荒)記- シイ/キヤクス/キも目だたないか花をさかせ、甘い香をただよわ
せています。野鳥たちの繁殖の時期 うまくみんな育つといいんだか?カットなどをお送り
○梅雨入りも間近か むし暑くなってきました 鳥たちもがん張っています (はるたか)
皆さんも 体調に気をつけてお過し下さい(途)

すずがも通信

発行人 亀谷栄

NO.25

事務局 篠木有

1984年6月1日発行

編集人 田久保晴孝

振替仙台2-6129

新妻 途夫

年会費1000円

行徳野鳥観察舎